

6次産業化支援センターの外観 (養父市建屋)



6次産業化支援センター完成

養父市 旧小学校校舎を活用

養父市が同市建屋の旧建屋小学校校舎を活用して整備を進めていた「6次産業化支援センター」が1日、開業した。農業の国家戦略特区に指定されている同市が、6次産業化を目指す企業や起業家の支援を目的として開設したもので、商品開発や製造施設として活用してもらう計画。既に2社の入居が決まっている。【塩見聡之】

マイハニー(養)と樽正本店(神)が入居

同小学校は2005年に児童数の減少により、近くの三谷小学校と統合され、新築移転した。その後は、地域のスポーツ拠点としてグラウンドをメインに活用しており、校舎は利用されていなかったため、センターとして活用することにした。整備したのは鉄筋コンクリート造3階建て延べ約1700㎡の校舎で、1、2階の1107㎡をセンターとして改修した。事業費は8348万円。1階に56㎡、10

3㎡の加工室3室、2階に64㎡、103㎡の加工室4室があるほか、共用スペースの会議室が2室、共同事務スペースとして使用できる産業連携支援室などがある。入居料は月額1万3千円、2万4千円。入居期間は原則5年間。入居が決まっているのは養蜂業の(株)マイハニー(本社・養父市八鹿町八鹿、西辻一真社長)と、ジャムなど製造業の(株)樽正本店(本社・神戸市灘区、石川寛社長)。

マイハニーは市内の耕作放棄地を利用した養蜂で収穫したハチミツを販売してきたが、今後は付加価値のある商品の開発を目指し、あめなどの製造に取り組んでいく考えで、同

センター2階の2室計145㎡を借りた。今後、必要な設備を整えて早期に商品製造に取り掛かる。樽正本店は、1階の3室計231㎡を活用。いちごやブルーベリーを使ったジャムやコンポート(果物のシロップ煮)を製造する。同社は中世ヨーロッパの製法を再現した本格的志向のコンポートを製造しており、原料を生産地で商品製造を行うことで食にこだわる消費者のニーズに応えた商品づくりを目指すという。

遅くとも夏までには稼働させたいとしており、従業員は地元採用も含め6〜7人を計画している。施設は(株)やぶパートナーズ(本社・養父市八鹿町八鹿、三野昌二社長)が指定管理者として運営する。同市では廃校になった6つの小中学校跡の利活用に取り組んでいて、同センターの完成により、全施設の利活用が完了した。